

8 応 急 手 当

(1) 出血時の手当て(切り傷等)

一般的に、体内の血液の約 20%が急速に失われると重篤な状態となり、約 30%を失えば、生命に危険を及ぼすと言われています。

止血法の基本は、出血部位を直接圧迫する「直接圧迫止血法」です。

きれいなガーゼやハンカチ、タオルなどを重ねて傷口に当て、その上を手で圧迫します。



- ① 感染防止のため、血液に直接触れないように、ビニール製やゴム製の手袋、ビニール袋などを使用する。
- ② ガーゼやハンカチなどが血液で濡れてくるのは、出血部位と圧迫位置がずれているか圧迫する力が足りないため。

(2) 骨折した時の手当て

骨折の症状は、激しい痛みや腫れがあり動かすことができない、変形が認められる、骨が飛び出しているなどが考えられます。

骨折の手当ての基本は、固定することです。

協力者がいれば骨折しているところを支えてもらい、骨折部の上下の関節が固定できる長さの物をそえて、三角巾等で固定します。



- ① そえるものは、骨折部の上下の関節を固定できる長さのものを使用する。
- ② 固定するときは、傷病者の顔色や表情を見ながら行う。

(3) やけどの手当て

やけどはすぐに水で冷やすことが大切です。

やけどを冷やすと、痛みが軽くなるだけではなく、やけどが悪化することを防ぐことができます



- ① 靴下など、衣服を着ている場合は、衣服ごと冷やす。
- ② 広い範囲にやけどをした場合は、やけどの部分だけではなく体全体が冷えてしまう可能性がある。

【救急車を呼ぶかどうか迷った時】

＜救急安心センターさっぽろ＞

札幌市では、24時間365日、市民からの救急医療相談に看護師が対応する電話による相談窓口「救急安心センターさっぽろ」を運営しています。

119番に電話した方が良いのか、様子を見た方がよいのか、判断に困った時は、

電話番号 **#7119** または
011-272-7119にかけて相談
できます。

